

令和元年7月期 学長記者懇談会

1. 日 時：令和元年7月31日（水） 15：00～16：00

2. 場 所：大学本部棟 4階 第一会議室

3. 懇談事項等

① 中国語スピーチコンテストの開催について・・・・・・・・・・資料1
(説明者：鈴木国際連携推進課長)

② 高大接続改革推進事業「琉大にぬふぁ星講座」における医学部体験授業について
・・・・・・・・・・資料2
(説明者：高山医学研究科教授、盛山グローバル教育支援機構特命教授)

③ Inspired Lab. におけるデザインシンキングのワークショップ開催
及び東海理化サマーインターンシップの実施について・・・・・・・・資料3
(説明者：国際地域創造学部観光地域デザインプログラム 平野典男教授)

④ 「高齢福祉社会のための安全システム：人工知能型防犯カメラシステムの研究」
・・・・・・・・・・資料4
(説明者：工学部工学科知能情報コース 長山格准教授)

4. 出席者：

西田学長、牛窪理事・副学長(地域・社会連携担当)、井上理事・副学長(教育・学生支援担当)、高山医学研究科教授、盛山グローバル教育支援機構特命教授、平野国際地域創造学部教授、長山工学部准教授、鈴木国際連携推進課長、湧川入試課長、金城企画調整役

中国語スピーチコンテストの概要について

1. 目 的 :

琉球大学は、“Land Grant University”の理念のもと、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指している。世界で最も母語人口の多い中国語の学習機会を高校生及び琉大生に提供し、国際社会で活躍できる人材育成、そして沖縄と台湾との学生交流、相互理解を深めることを目的とし、中国語スピーチコンテストを開催する。

2. 対 象 : 高校生、予備校生等、琉大生

3. 主 催 : 東呉大学、琉球大学（台北サテライトオフィス部会）

4. 後 援 : 台北駐日経済文化代表処那覇分処、沖縄県教育委員会、
公益財団法人沖縄県産業振興公社、独立行政法人日本貿易振興機構

5. 日 時 : 令和元年 11 月 30 日（土）13:00～16:30

6. 会 場 : 琉球大学（千原キャンパス）文系講義棟 2 F 講義室 2 1 5

7. 来 賓 : 台北駐日経済文化代表処那覇分処長

8. 審 査 員 : 台北駐日経済文化代表処那覇分処長、東呉大学教員、
人文社会学部 金城ひろみ准教授、国際地域創造学部 王怡人教授 等（予定）

9. 告知方法 : ホームページ等

10. 本選出場者数 : 高校生（朗読の部）7名
高校生及び予備校生等（スピーチの部）3名
琉大生（朗読の部）7名
琉大生（スピーチの部）3名

11. 表 彰 :

各部門で1位～3位の入賞者を選出し、賞状及び副賞を贈呈。

副賞は、高校生本選参加者全員及び琉大生1位を台湾での中国語研修旅行に招待。

（宿泊費、飲食費、交通費、中国語研修費を全額補助。航空券は、高校生1位及び琉大生1位：航空券全額補助、高校生2位及び3位：航空券半額補助、高校生4位以下：航空券自己負担）

12. 公式ホームページ URL :

<http://icae.scu.edu.tw/zh-hant/program>

予告

第1回 全国高校生 中国語スピーチコンテスト

高校生の部 / 大学生の部 出場者募集

高校生の部の本選参加者全員を 台湾で行われる中国語研修旅行にご招待します

★募集期間：2019年9月9日(月)～10月9日(水)

★本選

日時：2019年11月30日(土)
13:00～16:30
(受付12:30～13:00)

場所：琉球大学千原キャンパス
【入場自由・無料】

★部門

・〈高校生朗読の部〉/〈大学生朗読の部〉
主催者側の指定した課題文から一篇を選んで朗読する。

・〈高校生スピーチの部〉/〈大学生スピーチの部〉
主催者側によって定められたテーマに沿って、自作の原稿をもとに3分半以内のスピーチをする。本選ではスピーチの後、中国語での質疑応答がある。

★予選

〈高校生朗読の部〉 7名
〈高校生スピーチの部〉 3名
〈大学生朗読の部〉 7名
〈大学生スピーチの部〉 3名

総計20名の本選出場者を選出する。
(結果は10月中旬までに応募者全員に通知)

★主催



東吳大學
Soochow University



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

★参加対象

〈高校生朗読の部〉
・日本国籍を有し、日本の高校に在籍する生徒。
・両親のいずれかが中国語母語話者である者を除く。

〈高校生スピーチの部〉
・日本国籍を有する者で、日本の高校に在籍する生徒、または16歳以上20歳以下の中国語学習者。
・大学に在籍している者を除く。

〈大学生朗読の部〉
・琉球大学に在籍する大学1年生、2年生。
・両親のいずれかが中国語母語話者である者を除く。

〈大学生スピーチの部〉
・琉球大学に在籍する学部学生。
・両親のいずれかが中国語母語話者である者を除く。

※満5歳以降中国語圏に12ヶ月以上居住している者、華僑学校に合計6ヶ月以上通っている者、海外で中国語教育(短期留学を含む)を合計6ヶ月以上受けたことのある者を除く。

※朗読の部とスピーチの部を同時に申し込むことはできない。

★後援

・台北駐日経済文化代表処那覇分処
・沖縄県教育委員会
・公益財団法人沖縄県産業振興公社
・独立行政法人日本貿易振興機構
・沖縄貿易情報センター

★申込方法

・参加希望者は、以下のものをコンテスト公式HPにアップロードする。

〈高校生朗読の部〉/〈大学生朗読の部〉
①指定された形式の朗読録音データ

〈高校生スピーチの部〉/〈大学生スピーチの部〉
①スピーチ原稿
②指定された形式のスピーチ録音データ

★表彰

	賞状	研修旅行 航空券	賞金
高校生朗読の部	優勝	○ 全額補助	-
	準優勝	○ 半額補助	-
	3位	○ 半額補助	-
高校生スピーチの部	優勝	○ 全額補助	1万円
	準優勝	○ 半額補助	5千円
	3位	○ 半額補助	3千円
大学生朗読の部	優勝	○ 全額補助	-
	準優勝	○ -	-
	3位	○ -	-
大学生スピーチの部	優勝	○ 全額補助	1万円
	準優勝	○ -	5千円
	3位	○ -	3千円
副賞	高校生本選参加者全員及び琉球大2名を台湾での中国語研修旅行に招待。 (宿泊・飲食・交通・中国語研修費を全額補助。航空券費用のみ自己負担)		

★コンテスト公式HP



※2019年7月10日現在の情報です。
詳細については決まり次第、公式HPに掲載しますので、公式HPからご確認ください。

東呉大学（台湾）との交流状況について

1. 東呉大学の概要：

【所在地】台北市士林區臨溪路 70 號

【設置年・形態】 1900 年・私立大学

【相手機関の規模】

《学部等》ビッグデータ・マネジメント学部、経営学部、外国語・外国文化学部、
法学部、人文・社会科学部、理学部

《大学概要》前身は1900年に中国・蘇州にて設立された中国初の西洋式の大学で、1954年に台湾にて復興、設立した台湾最初の私立大学。台湾の私立大学の中でもトップクラスの大学であり、2005年から13年連続で台湾教育部よりTeaching Excellence Project（奨励大学教育卓越計画経費）を獲得している。企業からの評価も高く、特に商学部、法学部に定評があり、法政界、実業界に多くの著名な卒業生を輩出している。ビッグデータ・マネジメント学部は、台湾で初めて設立された。また、外国語・外国語文化学部の日本語学科は、定評がある。

《学生等の数》

学生数 約 15,000 名

教員（研究者）約 440 名

2. 主な交流実績：

・平成 30 年 6 月に広島で開催された日台大学学長フォーラムにて本学大城学長（当時）と東呉大学潘学長が面談を行い、今後の両学の交流について意見交換を行った。

・平成 30 年 8 月に琉球大学台北サテライトオフィススタッフが本学との交流を希望していた東呉大学長田正民教授（日本語学科）を訪問し、本学との今後の連携について意見交換を行った。

・平成 31 年 1 月 30 日 本学大城学長（当時）が東呉大学を訪問し、大学間交流協定及び学生交流に関する覚書を締結した。

・平成 31 年 3 月に東呉大学王世和国际学术交流部長（日本語学科教授）が本学を訪問し、国際連携推進課と中国語スピーチコンテストについて、国際教育課と交換留学プログラムについて意見交換を行った。

3. 今後の交流計画：

・令和元年 7 月 1 日 本学総合企画戦略部長、経営戦略課長、国際連携推進課長が東呉大学王世和国际学术交流部長（日本語学科教授）を訪問し、海外拠点短期研修について依頼予定。

・令和元年 11 月 30 日 本学において中国語スピーチコンテストを実施予定。

海外拠点の設置



【第3期中期目標・中期計画】(H28～33年度)

34. 亜熱帯・熱帯、島嶼・海洋、琉球・沖縄文化、健康・長寿の分野における国際共同研究を促進したり留学生の受入・派遣を拡大するため、アジア・太平洋地域に5カ所以上の海外拠点を設置する。

《海外拠点設置の目的》

本学の海外における教育研究活動並びに教育研究活動を通じた国際連携の推進

- (1) 学生及び帰国留学生並びに教員及び事務職員等の交流の促進及び支援
- (2) 海外の大学及び研究機関等との連携による教育研究活動の促進及び支援
- (3) 本学の教育研究等に関する情報発信及び留学生受入れのための促進及び支援

《海外拠点の主な活動内容》

- 交換学生の受入れ・派遣を含む学生交流の促進
- 教員、事務職員等の交流の促進
- 国際共同研究等研究交流の促進
- 協定大学、現地機関等との連携による教育研究活動の促進
- 本学の教育研究等に関する情報発信及び留学生受入れの促進
- 帰国留学生との交流の促進

1

台北サテライトオフィス



- サテライトオフィス所在地:
台湾台北市中山区松江路148号
盛香堂大楼4階 E室
沖縄県産業振興公社台北事務所内
(公社台北事務所の一部使用)
- 開設時期:平成28年5月開設

《台北サテライトオフィス》※詳細別紙参照

【体制】オフィススタッフ(本学卒業生)配置
※1日6時間週3日勤務

【主な活動予定】

- 学生交流・短期研修等の支援
- 教員訪問等研究交流の支援
- 留学生受入促進活動の支援(留学フェア参加等)
- 台湾の大学等との交流促進
- 合同シンポジウム開催等

【オフィススタッフ】

許翼軒(キョヨクケン)
※2015年9月～2016年8月本学交換留学の経験有
※2018年6月1日よりオフィスで勤務開始



台北サテライトオフィス開所式



オフィス入口

2

【今後の予定】

- 東呉大学・琉球大学共催「中国語スピーチコンテスト」(日本国内の高校生等対象)
開催予定:2019年11月30日(土)琉球大学
- 海外文化研修(中国語)
台湾・協定大学において中国語や台湾の文化等の学習を目的とした研修を実施。(全学部対象)
開催予定:2019年8月末～9月中旬(2週間)
- 本学教員と台湾協定大学教員等との交流会(2019年9月28日)
台湾の協定大学との今後の教育・研究交流の促進を目的とした交流会を台北にて開催

「琉球大学医学部体験授業」実施要項

1, 実施日時

令和元年 8 月 5 日(月)～9 日(金)

午前 9 : 0 0 ～午後 4 : 0 0 (昼食 1 2 : 0 0 ～1 3 : 0 0)

2, 実施場所

琉球大学 医学部

3, 主な日程

- ①月曜日 午前：オリエンテーション、医学部の紹介（医学部長ほか）
体験グループ分け
午後：講座訪問、研究内容の打ち合わせ
- ②火曜日 終日：研究室で研究体験
- ③水曜日 午前：先端ゲノム検査医学講座レクチャー
午後：研究室で研究体験
- ④木曜日 午前：研究室で研究体験
午後：最終日発表に向けて研修まとめ
- ⑤金曜日 午前：医療体験、脳神経外科講座レクチャー
午後：各グループで全体発表
< 修了証書授与 >

※今後の授業・研究の都合により実施に内容・体験内容を変更することもあります。

※体験授業期間中（8 月 5 日(月)～9 日(金)）にシミュレーションセンター見学と実習を予定しております。

研究体験の例

- ・体内にいる常在細菌の培養と観察を自分でやってみよう
- ・依存症を玄米由来の成分で改善させる取り組みを体験する
- ・遺伝子を改変したマウスを用いた研究を体験する
- ・ミクロの世界を探検しよう
- ・顔の特徴を捉えろ
- ・皮膚の変化からヒトの進化を考える
- ・生物の中での細胞の動きを観察しよう
- ・i P S 細胞を培養してみよう

4 締切 7 月 1 2 日(金) 1 2 : 0 0 厳守願います。

5 後援：沖縄県教育委員会（申請中）、沖縄県高等学校長協会、
沖縄県高等学校安全振興会（申請中）
協賛：日本トランスオーシャン航空（確認中）

F A X 送 信 票

令和元年 月 日

国立大学法人 琉球大学
アドミッションセンター

FAX:098-895-8129

様

() 高等学校
TEL ()
FAX ()

担当者

送信枚数1枚(送信票含む) 本票1枚のみ送信ください。

「琉球大学医学部体験授業」申込用紙

令和元年8月5日(月)～9日(金)に実施される琉球大学医学部体験授業への参加を申し込みます。

() 高等学校

学年	組	性別	氏名

※ 締 切 7月12日(金) 12:00厳守願います。



琉球大学

医学部体験授業



高等学校名 _____

名 前 _____

配属先講座名 _____

協賛： **JTA** 日本トランスオーシャン航空

後援：沖縄県教育委員会、沖縄県高等学校長協会、沖縄県高等学校安全振興会

1. 医学部体験授業の目的

沖縄県内の高校生に、医学部の授業・実習、最先端医療や生命科学の研究の体験を通して、医師・医学系研究者を志す強い意志を育む機会を与えることを目的としています。

2. 体験内容

- (1) 医療体験 場所：おきなわクリニカルシミュレーションセンター
高機能シミュレーターを用いた肺音・心音の聴診体験、心肺蘇生法など
- (2) 先端的医療・医学研究に関するレクチャー 104教室
 - ・レクチャー① 糖尿病になりやすい体質ってなんだろう？
 - ・レクチャー② 記憶と学習のメカニズム -脳神経外科医から見た脳科学の将来-
- (3) 医学実習体験・医学研究体験
別表に示した講座での実習・研究体験

3. 大まかなスケジュール

1日目 8月5日（月曜日）

- (1) 概要の説明、配属先の決定
- (2) 配属先での打合せ

2日目 8月6日（火曜日）

終日配属先での実験・実習

3日目 8月7日（水曜日）

- (1) レクチャー① 先端ゲノム検査医学講座 今村 美菜子 准教授
- (2) 配属先での実験・実習

4日目 8月8日（木曜日）

終日配属先での実験・実習

5日目 8月9日（金曜日）

- (1) おきなわクリニカルシミュレーションセンターにて医療体験
(講師：救急医学講座 関口浩至先生)
- (2) レクチャー② 脳神経外科学講座 石内 勝吾 教授
- (3) 実習・実験内容の発表（講座毎） 1講座7分＋質疑2分
- (4) 修了証書授与

4. 持参する物

- (1) 筆記用具、ノート、学生証
- (2) 可能なら ノートパソコン、USB

5. 連絡先

琉球大学医学部学務課 入試・学事係 098-895-1032

令和元年度 「琉球大学医学部体験授業」参加者名簿

	高 校 名	学年	組	性別	氏 名
1	北山高等学校	2		女	
2	名護高等学校	2		男	
3	コザ高等学校	1		女	
4	〃	2		男	
5	球陽高等学校	2		男	
6	〃	2		女	
7	普天間高等学校	1		男	
8	興南高等学校	1		女	
9	〃	2		女	
10	昭和薬科大学附属	2		女	
11	〃	2		女	
12	那覇国際高等学校	2		男	
13	〃	2		男	
14	那覇高等学校	1		女	
15	首里高等学校	2		男	
16	開邦高等学校	2		女	
17	〃	1		女	
18	沖縄尚学高等学校	2		男	
19	〃	2		女	
20	向陽高等学校	2		男	
21	〃	1		男	
22	宮古高等学校	2		女	
23	〃	2		女	
24	八重山高等学校	2		女	
25	〃	2		女	

医学部体験授業受入講座一覧

研究室・講座名	担当者名	場所	体験内容
システム生理学	宮里 実 細川 浩 梁 運飛	基礎研究棟 6階	頭から足の先まで(ノーベル)生理学(医学賞)を体験しよう!
脳神経外科学	黒木 博	臨床研究棟 4階	モデル動物の脳内神経細胞のCa濃度変化を蛍光顕微鏡下で可視化する技法を体験する。同時に記憶(可塑性)形成に関係する分子を活性化させた時のCa動態をモニタリングすることも体験してもらう。
育成医学	浜田 聡	臨床研究棟 7階	ヒト末梢白血球の分離とFlow cytometry法によるリンパ球サブセットの計測 ①ヒト末梢単核球白血球(単核球)の分離と生細胞数の算出 ②蛍光抗体染色とFlow cytometerによるリンパ球サブセットの染め分けと陽性細胞割合の算出 PHA刺激リンパ球におけるPD-1分子発現
分子解剖学	高山 千利 清水 千草	基礎研究棟 3階	脳の神経回路を見る! 脳のスライスを作成し、抑制性神経回路を可視化します。
ゲノム医科学	小田 高也	第二 基礎研究棟	細胞培養を用いた遺伝子発現実験 ～胎盤組織から樹立した細胞株に、緑色蛍光タンパク質等の遺伝子を有するplasmid DNAを導入し、蛍光顕微鏡により目的のタンパク質の発現を確認する～
分子・細胞生理学	高松 岳矢	基礎研究棟 6階	細胞培養体験とウサギの血小板凝集能測定
生化学	仲護 三代美	基礎研究棟 5階	「ゼブラフィッシュと培養細胞を用いた研究」 研究内容: ・ゼブラフィッシュの初期発生(脳形成、血球形成)を顕微鏡で観察する ・遺伝子の働きを阻害する試薬をゼブラフィッシュの受精卵に注入する ・ゼブラフィッシュの赤血球を染める ・培養細胞を育てて、タンパク質を抽出する。
腫瘍病理学	吉見 直己	基礎研究棟 4階	「病気」を顕微鏡で覗いてみよう! 病理学とは、病理の原因を明らかにする学問である。 どのような検体を用いてどのように診断するのか、病理の世界を体験しよう!
細胞病理学	崎浜 秀悟	基礎研究棟 4階	がん細胞の遺伝子の異常を調べてみよう —がん細胞のDNA配列を読んで、どのような異常があるかを調べる—
消化器・腫瘍外科学	高槻 光寿	臨床研究棟 4階	・最先端外科医療のレクチャー ・シミュレーションを用いた縫合や切開などの手術体験 ・手術室の裏側など
薬剤部	中村 克徳	附属病院	薬剤部の見学と医薬品に関する研究 (医薬品やサプリメントの分析)などを体験していただく予定です。

【日程表】

8月5日（月曜日） 1日目

時刻		場 所
9:00	学生集合	101 教室
9:10	点呼	101 教室
	冊子配布 諸注意 医学部内の施設説明	101 教室
9:30	医学部長挨拶 全体で写真撮影	101 教室
	体験授業の目的説明	101 教室
	注意事項、概要説明、配属講座の説明	101 教室
	配属先希望用紙記入提出 全員が自己紹介（1人1分）	101 教室
	配属先決定 講座まで案内、配属講座に移動	101 教室
	各講座にて昼食 実習・実験など	配属先の講座
17:00	体験学習 1 日目終了 配属先の講座で解散	

8月6日（火曜日） 2日目

時刻		場 所
9:00	配属講座へ直接行ってください	配属先の講座
17:00	体験学習 2 日目終了 配属先の講座で解散	

8月7日（水曜日） 3日目

時刻		場 所
9:00	レクチャー①	104 教室 (1 日目の向かいの部屋)
10:00	配属講座へ移動 実験・実習	配属先の講座
17:00	体験学習 3 日目終了 配属先の講座で解散	

8月8日（木曜日） 4日目

時刻		場 所
9:00	配属講座へ直接行ってください 実験・プレゼンの作成	配属先の講座
17:00	体験学習4日目終了 配属先の講座で解散	

8月9日（金曜日） 5日目 最終日

時刻		場 所
8:45	集合 点呼	おきなわクリニカル・シミュレーションセンター
9:00	医療体験	おきなわクリニカル・シミュレーションセンター
11:00	レクチャー②	104 教室
12:00	昼食	
13:00	グループ毎に成果発表 1グループ7分+質疑2分 全員が発表	104 教室
15:00	研究成果発表会及び修了証書授与 全体で写真撮影	104 教室
15:30	アンケート記入、提出 高山教授終了の挨拶、レポートの話	104 教室

琉球大学医学部体験授業研究成果発表会次第

日時：令和元年8月9日（金）13：00～

場所：基礎講義実習棟104教室

1. 研究成果発表

2. 医学部長総評

医学部長 石田肇

3. 修了証書授与

4. 全体写真撮影

5. アンケート記入

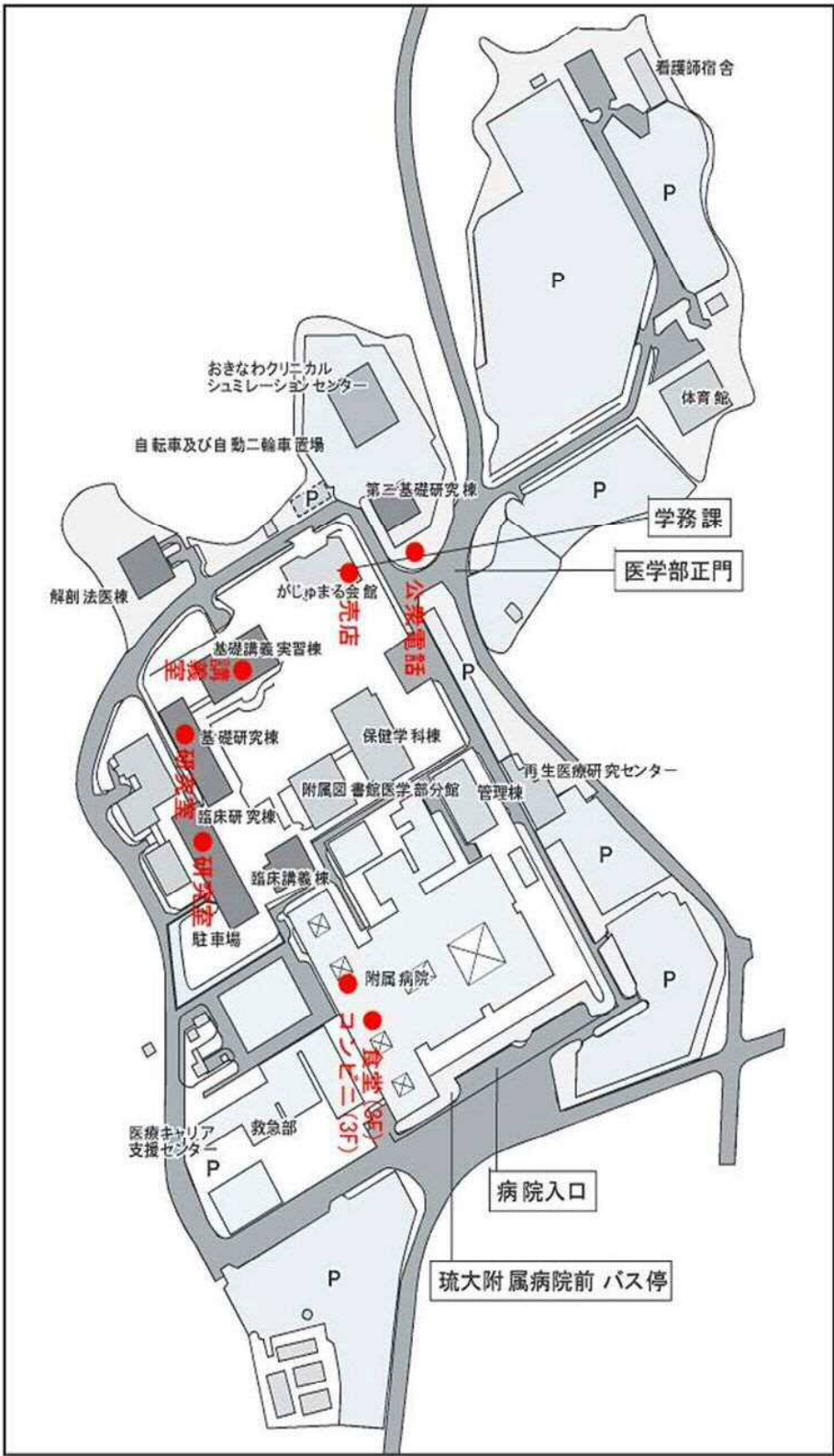
6. 閉会の挨拶

分子解剖学講座

教授 高山千利

*高等学校教員及び保護者の方も入場できます。是非、ご出席ください。

医学部建物配置図



講座配置図（研究棟）

階	臨床研究棟		基礎研究棟			階
9	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 (耳鼻咽喉科)	皮膚病態制御学 (皮膚科)	救急医学	衛生学・公衆衛生学	寄生虫・免疫病因病態学	9
8	顎顔面口腔機能再建学 (歯科口腔外科)	精神病態医学 (精神神経科)		ウイルス学	細菌学	8
7	育成医学 (小児科)	眼科学 (眼科)		法医学	薬理学	7
6	整形外科 (整形外科)	麻酔科学 (麻酔科)		分子・細胞生理学	システム生理学	6
5	胸部心臓血管外科学 (外科第二)	腎泌尿器外科学 (泌尿器科)		生化学	医化学	5
4	消化器・腫瘍外科学 (外科第一)	脳神経外科学 (脳神経外科)		腫瘍病理学	細胞病理学	4
3	循環器・腎臓・神経内科学 (内科第三)	感染症・呼吸器・消化器内科学 (内科第一)	(医学教育企画室)	人体解剖学	分子解剖学	3
2	女性・生殖医学 (産科婦人科)	内分泌代謝・血液・膠原病内科学 (内科第二)		(沖縄バイオバンク)	附属実験実習機器センター	2
1	臨床薬理学	放射線診断治療学 (放射線科)	臨床研究教育管理学	微生物学・腫瘍学	附属実験実習機器センター	1
	病院棟2階		第二基礎研究棟			
	薬剤部		免疫学	先進ゲノム検査学	ゲノム医科学	

琉球大学が実施する高大接続への取組について

琉球大学では、高大接続の向上と大学の理解を一層深めてもらうこと等を目的に、以下の取組を行っています。
各高校での進路指導や学習活動等に是非ご活用ください。

琉球大学説明会

大学進学支援講座

出前講座

公開講座

公開授業

琉大にぬふぁ星講座

探究型学習の指導

- * 各事業の概要は裏面を御覧ください。
- * 「琉球大学説明会」「大学進学支援講座」については、本学から別途送付する申請書類によりお申し込みください。
- * 「出前講座」「公開講座」「公開授業」については、沖縄県教育委員会を通じて別途案内します。
- * 「琉大にぬふぁ星講座」と「探究型学習の指導」については、実施内容や実施の可否について、事前の相談・協議が必要となりますので、まずは本学アドミッションセンターへ御相談ください。

ご不明な点は、
アドミッションセンターに
お気軽にお問い合わせ
ください！

なるほど～そうなんだ
よ～し！がんばるぞ！



琉球大学アドミッションセンター，入試課
TEL 098-895-8691(盛山)， 8325(石嶺)
FAX 098-895-8129
MAIL aopost@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

各事業の概要は次のとおりです。



1. 琉球大学説明会

主に高校3年生を対象として、琉球大学での学びと入学試験に関する概要について、本学アドミッション・センター教員が高等学校を訪問して説明します。希望に応じて各学部の教員が学部の説明を行います。
(実施期間 5～6月)

2. 大学進学支援講座

主に1, 2年生を対象として、大学進学意欲を向上させるため、大学進学の意義、文理選択、大学での学び等について、本学アドミッションセンター教員や各学部の教員が高等学校を訪問して説明します。
(実施時期 随時)

3. 出前講座

本学の教員が高等学校を訪問して専門分野に関する講義を行います。学習内容を深める等の目的に御利用ください。

※3月上旬に沖縄県教育委員会を通じて別途案内します。

4. 公開講座

高校生向けに実験やワークショップ等を取り入れた公開講座を開講します。研究成果の発表からタイムリーな話題などを公開しております。

※3月上旬に沖縄県教育委員会を通じて別途案内します。

5. 公開授業

本学の授業科目の一部を高校生にも公開しています。大学レベルの興味関心のある授業を学生とともに受講することが出来ます。

※3月上旬に沖縄県教育委員会を通じて別途案内します。

6. 琉大にぬふぁ星講座

医療系、エンジニア系等、特定の分野を目指す高校生を対象に、土日や長期休暇期間を活用し、数日間に渡って講義や実験実習を取り組みます。

実施希望にあたっては、希望する高校と本学において事前協議のうえ、実施の可否、実施内容等を決定しますので、アドミッションセンターへ御相談ください。

7. 探究型学習の指導

主に県内のSSHやSGHを実施している高等学校へのサポートとして、探究型学習の指導に対応できる教員を派遣します。実施希望にあたっては、希望する高校と本学において事前協議のうえ、実施の可否、実施内容等を決定しますので、アドミッションセンターへ御相談ください。

なお、SSH・SGH校以外でも、今後実施される新学習指導要領による探求学習に取り組むためのサポートも計画していますので、御相談ください。

**ご不明な点は、アドミッションセンターにお気軽にお問い合わせ
してください！**

琉大医学部で体験授業

八重高生2人、研究成果発表

【西原】県内高校から推薦のあった生徒が琉球大学医学部の授業を体験する同部主催の体験授業研究成果発表会が10日、同大で行われた。県内の高校生28人の



医学部体験授業の研究成果を終え、笑顔で修了証書を手にする渡嘉敷菜奈さん(右)と山田七葉さん(左)10日午後、西原町の琉球大学上原キャンパス

うち八重山高校2年の渡嘉敷菜奈さん(16)と山田七葉さん(同)も参加、それぞれ細胞病理学、ゲノム医学について研究成果を発表した。

石垣市出身の盛山泰秀特命教授が中心となり、医師や医学系研究者を志す機会を創出しようと、高大接続改革推進事業の一環として初めて実施。成績優秀な県内の高校1、2年生が参加した。

人間の体の仕組みなどに興味があり、臨床医を目指すという渡嘉敷さんは、加留部謙之輔教授のもとで細胞病理学について学んだ。山田さんは小田高也

准教授の指導を受け、ゲノム医学の臨床研究に触れた。

渡嘉敷さんは「病理学は病気を特定する重要な仕事だと分かった。今後もしっかり勉強して医学部に進学したい」、山田さんは「見たこともない器具や試薬で自分が何をやっているか最初は分からなかったが、先生の指導のおかげで医学に対して幅広く興味が持てたと笑顔で話した。

盛山特命教授は「志の高い医者を目指してもらおうと実施した。八重山や宮古からも医療を支える人材が育つよう期待している」と話した。

八重山毎日新聞
2018年8月11日

(7月学長記者懇談会資料)

2019年7月5日

国際地域創造学部観光地域デザインプログラム

平野 典男

Inspired Lab.におけるデザインシンキングのワークショップ開催 及び東海理化サマーインターンシップの実施について

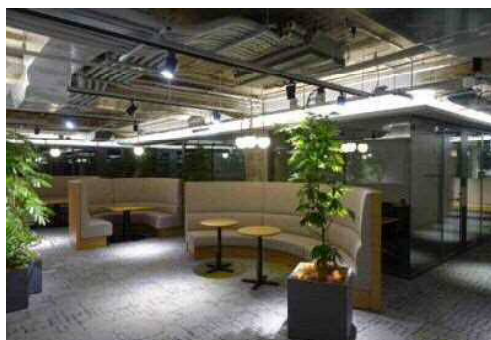
本年8月22日、本学観光産業論研究室はInspired Lab.¹(東京都千代田区大手町1-6-1大手町ビル6階)においてデザインシンキングのワークショップを開催する。

デザインシンキングはデザイナーの用いるアプローチや思考法を元にチームで課題を洗い出し解決策を生み出す手法で、ビジネスマンに必須のスキルとして今注目されている。²

ワークショップでは、同ラボを設立したSAPジャパン株式会社³、三菱地所株式会社のほか、Inspired Lab.に入居する大企業の新規事業担当者や世界最先端テクノロジーを持つスタートアップのスタッフがファシリテーターを務める。

参加者は「観光学演習ⅠⅡ」を履修する本学観光産業科学部3・4年次学生と本ワークショップに応募参加する社会人である。

また、株式会社東海理化⁴の全面協力により、本ワークショップ参加学生を対象に、Inspired Lab.におけるインターンシッププログラムが提供される。学生達は、本学夏季休暇期間を利用して、Inspired Lab.で、デザイン思考の学習、デザインシンキングワークショップの準備・開催、入居企業の新規事業創出支援に関する事務や業務補助等の実習を行う。



以上

¹ Inspired. Lab はSAP、三菱地所が共同運営するオープンイノベーションのためのコラボスペースで、所在は東京都大手町1丁目6番1号 大手町ビル6階。有名企業のほか、SAPがスタートアップを支援するベンチャー企業や個人も入居している。入居企業例：東海理化、旭化成、トラスコ中山、Astoscale、東京海上日動、WHILL

<https://inspiredlab.jp/>

<https://search.yahoo.co.jp/amp/s/www.businessinsider.jp/amp/post-184514%3Fusqp%3Dmq331AQPCAEoAZgB3cPMvPaC2uo2>

² 観光産業論研究室では、デザイン思考が観光地域デザインを学ぶ学生にとって将来必須のスキルになると考え、本年4月より月1回ワークショップを開催している。Inspired. Labの全面協力下、ワークショップでは同ラボ入居企業及びそのビジネスパートナー企業の社員に来沖頂き、ファシリテーターを務めて頂いている。6月に開催した第3回ワークショップでは、沖縄ITイノベーション戦略センター(ISCO)、沖縄市創業支援拠点Lagoonを通じて応募があった県内企業の社会人も参加した。7月25日(木)に予定する第4回も県内企業の社会人も参加の予定である。

³ SAPジャパン ITシステム開発や企業のアクセラレーションプログラム支援などを行っているドイツの大手ソフトウェア企業の日本法人。

⁴ 愛知県に本社を置く東証1部の自動車部品メーカー 資本金228億円 売上高4,819億円 経常利益322億円 従業員数18,919名 (2017年度) <http://www.tokai-rika.co.jp/>

次世代型インテリジェント防犯カメラシステム (ISCAS) の研究

○長山 格 (知能情報コース、情報工学、)

1. 研究の背景と概要

高齢福祉社会の進展とともに、全国で高齢者や女性・障害者など社会的弱者を狙った「ひったくり」が多発している。それら被害者のおよそ半数が 60 歳以上の高齢者であり、その 90% は女性であることが報告されている。すなわち、「ひったくり」は抵抗・反撃される可能性が少ない女性および高齢者等を狙って犯行を行うという極めて卑劣な犯罪であり、特に高齢者が被害に遭った場合、転倒・負傷し大怪我を負うまたは死亡するケースすら生じている。

このような状況にもかかわらず、「ひったくり」を防ぐための仕組みやシステムはいまだ存在せず、また有人パトロールにも限界があることからもっぱら自衛に努めるしかないのが現状である。

本研究室では、人工知能技術を利用して図 1 の防犯カメラ等の映像情報から人物挙動を自動的に認識・推定し、その場の状況を判断する能力を持つ次世代型インテリジェント防犯カメラシステム (ISCAS) の研究を行っている。すなわち、図 2 のように防犯カメラの映像情報からその場の状況を自動認識し、特に路上における「ひったくり」や事件・事故の発生を自動検知する知的防犯カメラシステムの研究開発を進めている。これは、将来的にひったくりだけでなく急病や怪我・火災の発生または事件・交通事故等の広範な異常状態を自動的に検知するとともに、適切な警告・通報を自動発信することが可能なシステムとなる。本システムが実現されることにより、

- 1) 人的社会的コストを最小限に抑えつつ、有人監視に匹敵する臨機応変な防犯システムが可能。
- 2) 空港、駅、量販店での防犯・盗難防止、ゴミの不法投棄防止等、日常生活の保安に有効。
- 3) 一人暮らしの高齢者や傷病者の異常・事故発生等を自動判断し迅速な救急通報が可能。
- 4) 安全かつ便利なスマートシティや Society5.0 等の基盤的インフラの一つとして実現可能。

などのメリットが期待される。



図 1 汎用防犯カメラ

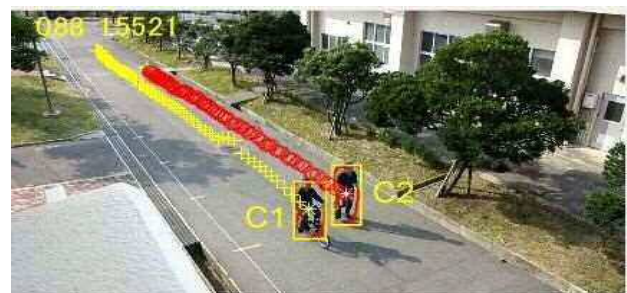


図 2 次世代型知的防犯カメラシステムのフィールド実験

2. キーワード

社会安全システム、防犯カメラ、人工知能技術、画像情報処理、行動分析、ひったくり

3. 発表論文および特許

[1]"An Intelligent Security Camera System for Kidnapping Detection", Akira Miyahara, Itaru Nagayama, Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics, Vol.17, No.5, pp.746-752 (2013)

[2]"A Study on Intelligent Security Camera for Crime Scene Detection", Akira Miyahara, Koichi Shimabukuro, Itaru Nagayama, Proceedings of the 45th International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications, p.34-40, Okinawa, Japan(2013)

4. 研究資金

科学研究費補助金 基盤研究(C)「協調型機械学習による犯罪発生を頑健に自動検知する次世代型高精度知的防犯カメラ」、研究代表：長山 格、(平成 29 年～32 年)

科学研究費補助金 基盤研究(C)「犯罪状況を自動検知する高性能次世代型知的防犯カメラシステムの開発」、研究代表：長山 格、(平成 26 年～28 年)

5. 受付可能な科学技術相談の例

- ①ゴミ・廃棄物の不法投棄の防止、②防犯および防犯支援システムの開発、③安全管理システムの開発

犯罪発生を自動検知する
次世代型人工知能防犯カメラシステム
ISCAS(Intelligent Security Camera System)
—高齢福祉社会のための安全システム—

琉球大学工学部知能情報コース・応用計算研究室
Applied Computing Laboratory, University of the Ryukyus
准教授 長山 格, Ph.D.

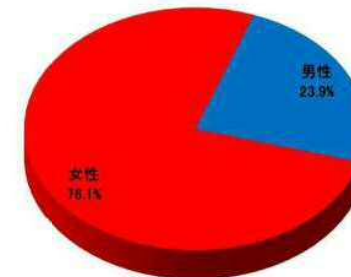
令和元年7月 学長記者懇談会資料
(2019/07/31)

0

被害者の年齢構成



被害者の男女別構成



(※)神奈川県警ひったくり事件統計 (H29年1月～R元年5月) から引用
<https://www.police.pref.kanagawa.jp/mes/mesd0030.htm>

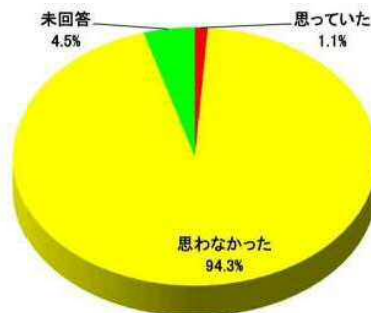
令和元年7月 学長記者懇談会資料
(2019/07/31)

1

犯行手段



被害者へ質問
(被害に遭うと思ってましたか?)



(※)神奈川県警ひったくり事件統計 (H29年1月～R元年5月) から引用
<https://www.police.pref.kanagawa.jp/mes/mesd0030.htm>

令和元年7月 学長記者懇談会資料
(2019/07/31)

2

- ◆ひったくり犯は「高齢者、女性、障害者」など弱者を狙う。
 - ⇒ 逃走が容易で、反撃される危険がないため。
 - ⇒ 発見・救助が遅れて被害者が死亡するケースがある。
- ◆犯行現場は……
 - ⇒ 人気のない時間帯
 - ⇒ 人目につかない路地・住宅街で多発する。
- ◆検挙率が低く、犯人から見ると「成功しやすい犯行」。
2010年度の各種犯罪の検挙率を比較すると……
 - ⇒殺人 検挙率:96.4%
 - ⇒放火 検挙率:75.1%
 - ⇒誘拐 検挙率:81.6%
 - ⇒ひったくり 検挙率:43.4%
- ◆日常的に発生
 - ⇒日本全国で約40件/日(2010年度 14,559件)

令和元年7月 学長記者懇談会資料
(2019/07/31)

3

[研究の経緯]

◆ 従来の防犯カメラの欠点

- ①証拠記録が主目的。
- ②現に発生している事件には対応できない。
- ③有人監視は人件費・コストが高い。
- ④特に「ひったくり」は卑劣な犯罪。

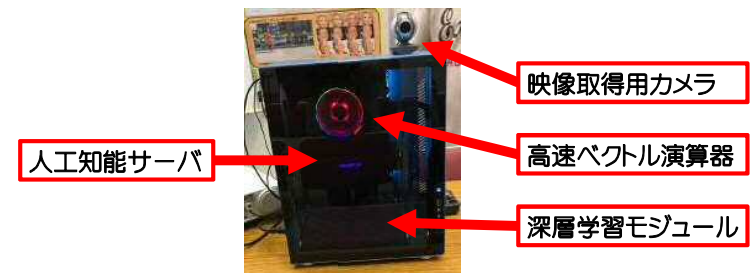
◆ 上記の問題を情報技術でカバーできないか？



◆ 次世代型防犯カメラシステムの研究をスタート(2011年)

- ⇒「ひったくり」「犯罪」の**自動検知**と**即時通報**と**証拠記録**。
- ⇒道々に「エリア専属ガードマン」が居るかのような状況を創る。

次世代型人工知能防犯カメラシステム(ISCAS)



Deep Learning + 推論エンジン + 画像処理
3つの技術を統合したハイブリッドAI



物体認識&状況判断能力を持つ賢い防犯カメラシステム

次世代型人工知能防犯カメラシステム(ISCAS)

なにができるのか？

⇒ ひったくりや犯罪発生を自動検知して自動通報。

- ①映像から人物・バイク・車・自転車、カバン等を自動認識。
- ②動きや挙動を行動解析して「ひったくり」か否かを判断。
- ③通常の行動ならそのまま。
- ④「ひったくり」ならば**アラーム発報**と**自動通報**を実行。

- ◆ 低コストで24時間稼働。
- ◆ 犯行抑止効果と、即時通報・捜査支援に活用。
- ◆ 運用方法は、現在の防犯カメラと同じでOK。

実験パターン2(通常)



実験パターン12(犯行)



令和元年7月 学長記者懇談会資料
(2019/07/31)

8

実験パターン2(通常) [ISCASテスト結果]



令和元年7月 学長記者懇談会資料
(2019/07/31)

9

実験パターン12(犯行) [ISCASテスト結果]



令和元年7月 学長記者懇談会資料
(2019/07/31)

10

まとめ

[問題]

- 高齢者・女性・障害者など弱者を狙う「ひったくり」。

[対策]

- 次世代型人工知能防犯カメラシステム(ISCAS)を研究中。
- ひったくり発生を自動検知&自動通報する。
- 現時点で約94.6%の精度を達成。
- 安心・安全な社会をつくる「AIガードマン」の実現が最終目標。

[今後の方針と課題]

- さらに検知精度を向上させるべく研究推進。
- ひったくり以外の犯罪や交通事故等の自動検出も対象に。
- 最大の課題は研究費不足。

令和元年7月 学長記者懇談会資料
(2019/07/31)

11